

令和元年
9月30日発行



北の便り

No.10

不審者対応訓練を終えて



「自分で判断し、行動する力を」

9月10日（火）に、不審者侵入を想定した避難訓練を実施しました。児童は、火災や地震発生時の訓練は経験がありますが、不審者侵入を想定した訓練は初めてです。池田小学校の事件から十八年がたち、教師の中でも当時のことを詳しく知らない者も多くなりました。どのような場面に遭遇しても児童は冷静かつ迅速に避難ができ、教師は児童の生命・安全を守るとともに、自らの命を守るために行動ができることが必要です。代表である六年生の全学級で、バリケードを机で築いて侵入しにくくし、それ以外の学級、学年は、素早く体育館に避難して立てこもり、警察の到着を待つという方法で実施しました。事前に実施した教師のシミュレーション訓練では、不審者の侵入を少しでも遅くするための、刺叉の設置場所の再確認、使い方の訓練等も行いました。

少し前になりますが、中日新聞サンデー版で、東京学芸大学渡邊正樹教授が危険予測・回避能力の必要性を述べておられました。危険予測とは「危険が存在する場面において行動する前に危険を知覚し、それが身に迫る危険であるかどうか、重大な結果を招くかどうかを評価すること」。危険回避とは、「危険が予測に基づき迅速かつ的確に、より安全な行動を選択すること」と述べておられます。

火災や地震発生を想定した避難訓練においても、教室で教師がいる場合に災害が起こるわけではないという考えの下、子どもたちが自主的に判断できること、自ら危険を回避する力を育てることをねらいとして、繰り返し実施して行きます。

ぜひ、各家庭におかれましても、避難場所や連絡方法など、いざという場合に備えた確認をお子さんを交えて行っていただければと思います。

（文責： 校長 夏目 知好）

子どもたちの感想

- 初めての不審者対応訓練だったので、ドキドキした。本当に起こったら、今日とは比べものにならないほど怖いと思う。
- この訓練をせずに不審者が来たとしたら、多分、何をしたらよいか全く分らなかった。
- 先生たちが不審者を押さええている間に逃げるので、命がけで僕たちを守ろうとしてくださる先生のためにも、自分の命をしっかりと守りたい。
- 不審者の怖さや、食い止めることの難しさが分かり、真剣に取り組むことができた。
- 登下校中や遊んでいる時、知らない人について行かないように、時間や場所を家の人に伝えてから出かけることが大切だと思った。

切り取り線

ご意見・ご感想(北の便りNo.10)

年 組 児童名()

*北の便りをご覧になって、ご意見・ご感想などがありましたらお書きください。